

## 誰でもわかる、必見コピペNO.18（憲法9条にノーベル賞）

### ■2014年10月4日「9条」ノーベル賞本命？ オスロの団体所長「紛争続く今こそ」

【ロンドン＝石川保典】10日に発表されるノーベル平和賞で、受賞者の事前予想家として知られるノルウェーの国際平和研究所（オスロ）のハルプビケン所長は3日、「憲法9条を保持してきた日本国民」を予想の第1位に挙げた。

所長は本紙に「安倍政権による解釈変更をめぐる論争で注目されたが、そうでなくてもこの憲法は平和賞の価値がある」と話す。

さらに、中国をめぐるアジアでの緊張増大やウクライナ危機を指摘し「冷戦終結後も紛争のやまない現状を見れば、9条は平和の促進という賞の原点にふさわしい」と、1位にした理由を述べた。

「9条にノーベル賞を」という市民運動は神奈川県座間市の主婦が始め、これまでに約41万人が署名。候補として正式に受理された。今年の候補には、過去最高の278個人・団体が推薦されている。所長が発表している予想で過去10年間に的中したのは2007年のゴア元米副大統領だけ。ただ、受賞の前年などに予想していたものも含めると、3人が的中している。

### ■NHK 10月4日 6時13分 ノーベル平和賞に「憲法9条持つ日本国民」予想

来週、ノーベル平和賞が発表されるのを前に、予想を行っているノルウェーの研究所は、ことしの受賞候補として戦争の放棄などをうたった憲法9条を持ち続ける日本国民など5つの候補を挙げました。

これは毎年、平和賞の予想を行っているノルウェーの「オスロ平和研究所」が3日、発表したもので、女性が教育を受ける権利などを訴えているマララ・ユスフザイさんや、政権に批判的なロシアのメディアなど5つの受賞候補を挙げました。

このうち、戦争の放棄などをうたった憲法9条を持ち続ける日本国民をことしの最有力候補に選んだとしています。

理由について、オスロ平和研究所のハルプビケン所長は、NHKの取材に対し「ウクライナや東アジアなど各地で緊張が高まっている今こそ、日本の憲法9条の価値が国際的に認識されるべきだ」と話していて、紛争の予防を目指すノーベル平和賞の趣旨に立ち返る意味でもふさわしいとしています。ただ、研究所は過去10年間で40余りの候補を挙げていますが、予想が的中したのは2007年だけでした。

憲法9条を巡っては、神奈川県の子婦らの呼びかけで、ノーベル平和賞の受賞に向けた署名活動が去年から始まり、趣旨に賛同した国内の大学教授らが、「戦争放棄の憲法9条を保持している日本国民」をノーベル平和賞の選考委員会に推薦していました。

平和賞は10日、ノルウェーの首都オスロで発表されます。

### ■朝日新聞デジタル 2014年10月4日

#### ノーベル平和賞予測、「憲法9条保持する日本国民」浮上

10日にノルウェー・オスロで発表される2014年のノーベル平和賞の受賞予測に、「憲法9条を保持する日本国民」が浮上した。受賞予測を毎年発表している民間研究機関、オスロ国際平和研究所（PRIO）が3日、ウェブサイト上の予測リストを更新し、それまで「欄外」だった「憲法9条」がトップに躍り出た。受賞への期待が高まりそうだ。

受賞予測リストは、①フランシスコ・ローマ法王②エドワード・スノーデン氏③「ノーバヤ・ガゼータ」（ロシアの新聞）④ドニ・ムクウェゲ氏（コンゴ民主共和国の医師）⑤マララ・ユスフザイ氏（パキスタン出身の女性の教育の権利提唱者）が挙がっていたが、3日付でリストが更新され、フランシスコ法王が「憲法9条」に差し替わった。他の4候補は順位が入れ替わっただけだった。

PRIOのハープウィケン所長（52）は3日、朝日新聞の取材に応じ、「中立や不可侵、平和主義につながる原則を掲げる憲法9条は、軍事的な紛争解決が多用される昨今において重要にもかかわらず、十分に光が当てられていない。領土問題などアジアがはらむ将来の紛争のおそれについても注目されるべきだ」と話した。

サイト上の予測コメントでは、安倍内閣が今年7月に踏み切った憲法9条の解釈変更が「（アジア）地域で武力衝突の前触れになると懸念されている」とし、「今こそ初期のノーベル平和賞が掲げた原則に立ち返るべき時だろう」と評していた。

PRIOの受賞予測は、特定の候補を推薦する目的や、賞を選定するノーベル委員会とのつながりを否定。ただ2007年にゴア元米副大統領の受賞を当てるなどの中例がいくつかあり、毎年、注目が集まる。今年のノーベル平和賞は2月1日までに世界中から推薦された278の人物と団体からノーベル委員会を選定し、10日午前11時（日本時間午後6時）に発表される。

憲法9条をノーベル平和賞に推薦する運動は、神奈川県座間市の主婦鷹巣直美さんらが始めた。国会議員らも同調し、署名運動を進める「憲法9条にノーベル平和賞を」実行委員会（事務局・神奈川県相模原市）のウェブサイトによると2日現在、40万人以上の署名が集まった。（ロンドン＝渡辺志帆）

## ■「憲法9条にノーベル平和賞を」実行委員会

### Executive Committee for “The Nobel Peace Prize for Article 9 of the Japanese Constitution”

2014年ノーベル平和賞・受賞発表は10月10日午後6時（日本時間）です。紙面署名とネット署名の集約数の2014年度最終通知は、【10月9日】に予定しております。（紙面署名は、実行委員会で保管し、集約数のみをお伝えさせていただきます。集約に数日かかりますので、ご考慮下さい。署名は年度に関係なく累積します。ノーベル平和賞を授与されるまで署名は継続いたします。

2014年10月2日木曜日41万人を突破しました！引き続き署名拡散にご協力お願いいたします。

署名数： 合計 41万2722

（紙面：34万5354          ネット署名：6万7368          10/2現在）

たくさんの皆様のご賛同・ご支援・ご協力心から感謝申し上げます。

戦争しない憲法9条を輝かせるため、2014年度の受賞を願い、世界中から署名100万人を目指し推薦人と賛同署名を募っています！

紙面署名とネット署名の集約数の今年度最終通知は、【10月9日】に予定しております。

これから届きます紙面署名は、実行委員会で保管し、集約数のみをお伝えさせていただきます。集約に数日かかりますので、ご考慮下さい。本取組は、ノーベル平和賞が授与されるまで継続いたします。

どうか身近なお知り合いから世界までご賛同の輪を広めていただければ幸いです！

●日本語版ネット署名 ⇒ <http://chn.ge/1bNX7Hb>

●英語版ネット署名 ⇒ <http://chn.ge/1bU0pay>

●韓国語版ネット署名 ⇒ <http://chn.ge/SX9NHa>

● 中国語版ネット署名 ⇒ <http://chn.ge/1kRuUIJ>

ツイッターでも拡散お願いいたします！

ブログ：<http://nobel-peace-prize-for-article-9.blogspot.jp/>

世界の平和を願い、「戦争しないでほしい、仲良くしてほしい」という素直な、素朴な平和を求める声を世界中で大きくするために、国を超えて世界中の平和を愛する人たちと手をつなぎ、それぞれの政府に戦争させないように働きかけ、置かれたところから、世界の平和を願う1人ひとりの小さな声と力を合わせて頑張っていきましょう！

引き続きどうぞよろしくお願いいたします！

心から感謝を込めて

## ■東京新聞 2014年7月6日【ドナルド・キーンの東京下町日記】

### 消えゆく「理想の国」

終戦間近の一九四五年六月十三日に書かれた私宛ての手紙が、六十九年もかかってホノルルから届いた。書いたのは、私がホノルルで米海軍の通訳士官だった時に部下だったヘンリー・横山。送ってくれたのは彼の妻マージだった。終戦後、医師となりハワイの地域医療に貢献した日系二世のヘンリーは十年ほど前に亡くなったが、マージが最近、部屋を整理していて手紙を見つけたそうだ。

その年の三月、私は沖縄上陸作戦に参加することになり、ホノルルからフィリピンのレイテ島へ飛んだ。艦船に乗り換え、日本軍が手薄だった読谷村に翌四月、上陸。その直後に私は陸軍第九六歩兵師団に合流した。手紙の宛名は同師団気付と間違っただけではなかったが、戦中の混乱もあって届かなかったのだろう。

手紙の中身はヘンリーと一緒に働いた、ホノルル近郊の海に面した米軍翻訳局の近況報告。少し黄ばんだ手紙を手にするると当時の記憶がよみがえってきた。

翻訳局は、私が日本研究にのめり込む原点でもあった。壮絶な戦闘があった南太平洋西部のガダルカナル島で回収された日本兵の日記を私は翻訳した。血痕が残り、異臭を漂わせた日記には、物量で圧倒的な米軍の砲撃におびえ、飢餓とマラリアにさいなまれた苦悩がつづられていた。死を予感して「家族に会いたい」と故郷に思いをはせる記述には心を揺さぶられた。

私たちには週一回、米兵の手紙を検閲する任務もあった。その手紙には「食事がまずい」「早く帰りたい」といった記述が多く、大義のために滅私奉公する日本兵との落差に、私は複雑な思いをした。日本の軍国主義を受け入れることは到底できなかったが、僚友よりも、日本兵への同情を禁じ得なかったのだ。

反戦主義者の私が通訳士官となった理由の一つが、何か特別な情報を入手して、一日でも早く戦争を終わらせようという思いだった。それはついぞ果たせなかったが、平和への思いは絶えることなく、日本人となった今も続いている。

戦後、日本人は一人も戦死していない。素晴らしいことだ。不戦を誓う憲法九条のおかげであり、世界が見習うべき精神である。ところが、日本は解釈改憲で「理想の国」から「普通の国」になろうとしている。

私は戦争体験者として、国際問題の解決には軍事行動を取るべきではないと思っている。遺体が無造作に転がる戦場に立てば、その悲惨さ、むなしさは明らかだ。それに、日本にふさわしい平和的な国際貢献の方策はいくらでもある。

「Dear Donald」で始まるヘンリーからの手紙には、仲の良かった同僚や嫌われ者の上司についてなど、他愛（たわい）もない話が内輪の隠語交じりで書いてあった。六月が私の誕生月で、ヘンリーの母が「特別にクッキーを焼いて送る」ともあった。それはどこへ行ったか分からないが、マージが手紙に別のクッキーを添えてくれた。

それを頼張ると翻訳局で机を並べた同僚たちの横顔と、血がにじんだ日記の文字が脳裏に浮かんだ。思い出は思い出だけでいい。戦後、憲法によって守られてきた日本を、少しでも戦前に戻そうとする動きに私は抵抗を感じている。（日本文学研究者）



●毎日新聞2014.9.12 「憲法9条にノーベル賞を」実行委員会:「署名40万人突破」